

厚生労働科学研究委託費（医療機器開発推進研究事業）
委託業務成果報告（業務項目）

心房細動に対するカテーテルアブレーション後の早期再発と
抗不整脈薬使用が臨床効果に及ぼす影響

担当責任者

宮本 康二 国立循環器病研究センター心臓血管内科 医師
草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科 部長

心房細動(AF)に対するカテーテルアブレーションは確立された治療法であるが、90日以内(blanking period)の早期再発は隔離術そのものの影響があると考えられ、再発例には抗不整脈薬の使用が行われている。今回、術後の早期再発と抗不整脈薬使用が臨床効果に及ぼす影響を後ろ向きに検討した。266名のアブレーション施行患者（発作性AF186、持続性AF80）を平均470日followした。早期再発の有無にかかわらず158名(59%)の患者で急性期（90日以内）に抗不整脈薬の投与が行われていた。130名(49%)の患者で90日以内に再発が確認され、そのうち88名(68%)に急性期の抗不整脈薬投与（ベプリジル49、I群薬35、アミオダロン4）が行われていた。Kaplan-Meier解析では、急性期の抗不整脈薬の投与は遠隔期のAF再発の有無に影響を及ぼさなかった。以上からアブレーション術後の早期再発を積極的に見つけ出す脈波モニタリングの有用性が示唆される。

A. 研究目的

心房細動(AF)に対する、肺静脈隔離術(PVI)は確立された治療法であるが、90日以内(blanking period)の早期再発は隔離術そのものの影響があると考えられ、再発例には抗不整脈薬の使用が行われている。今回、術後の早期再発と抗不整脈薬使用が臨床効果に及ぼす影響を後ろ向きに検討した。

B. 研究方法

266名の心房細動に対するカテーテルアブレーション患者を術後90日以内の早期再発の有無、術後90日以内の抗不整脈薬投与の有無に分け、早期再発と抗不整脈薬投与が遠隔期のAFの有無に及ぼす影響を後ろ向きに検討した。

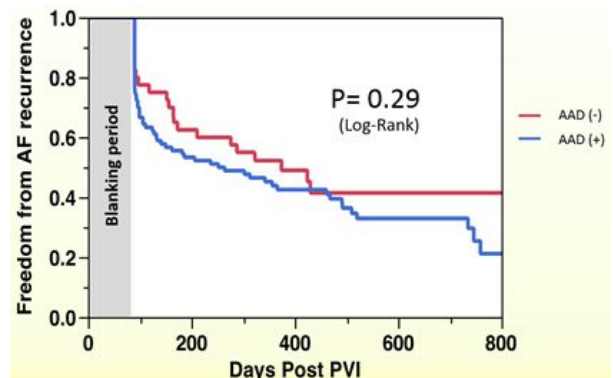
C. 研究結果

早期再発の有無にかかわらず158名(59%)の患者で急性期（90日以内）に抗不整脈薬の投与が行われていた。130名(49%)の患者で90日以内に再発が確認され、そのうち88名(68%)に急性期の抗不整脈薬投与（ベプリジル49、I群抗不整脈薬35、アミオダロン4）が行われており、左房が大きな症例で投与が行われていた(LAVI 52 vs. 43 mL/m², P=0.03)。Kaplan-Meier解析では、急性期の抗不整脈薬の投与は遠隔期のAF再発の有無に影響を及ぼさなかった(Log-Rank P=0.20)。

D. 考察

アブレーション術後90日以内は、アブレーションそのものの影響があると考えられ、一般的にはblanking periodとして再発の有無は考慮しないが、今回の

研究から早期再発例では、抗不整脈薬の投与の有無に拘らず長期的な洞調律維持効果が少ないことが明らかとなり、術後早期に再発をいかに見つけ出すことができるかが極めて重要であることがわかった。



E. 結論

術後急性期の抗不整脈薬投与は臨床的に意義をもたない。アブレーション術後の早期再発を積極的に見つけ出す脈波モニタリングの有用性が示唆される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- Okamatsu H, Ohara T, Kanzaki H, Nakajima I, Miyamoto K, Okamura H, Noda T, Aiba T, Kusano K, Kamakura S,

Shimizu W, Satomi K. Impact of left ventricular diastolic dysfunction on outcome of catheter ablation for atrial fibrillation in patients with hypertrophic cardiomyopathy. *Circ J*. 2014 Epub

2. 草野研吾：上室性頻拍・心房粗動。今日の治療指針 2015 版。386-388 頁, 医学書院, 東京, 2014
3. 草野研吾：薬物によるリズムコントロール療法の適応と実際。Cardiac Practice 26; 39-44, 2015
4. 上島彩子, 草野研吾：心房細動の抗凝固療法。Medicina 51; 1723-1727, 2014
5. 草野研吾：心房細動に対する低心機能例での抗不整脈薬を用いた洞調律維持療法の現状と再考。心電図 33 (3); 449-457, 2014

2. 学会発表

Hirose S, Kusano K, et al. Usefulness of Antiarrhythmic Drugs during Blanking Period in Patients with Atrial Fibrillation after Pulmonary Vein Isolation. JCS 2014, Tokyo

Noda T, Kengo Kusano, et al. Clinical impact of cardiac resynchronization therapy in patients with atrial fibrillation. 第 18 回日本心不全学会学術集会, 大阪, 2014

Kusano K, et al: Oral Anticoagulation Therapy in Atrial Fibrillation Patients at Low Risk for Stroke. JCS 2014, Tokyo

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし